

*庭師？世界を歩く＜フランス編＞ 前半

2016年5月23日～6月6日、今回は南フランスのニースから時計廻りにロワール、ノルマンディ、パリまで。フランスの世界遺産9箇所とシャガール、セザンヌ、モネなどの画家の足跡を訪ねる旅です。旅の前半は25°Cを超える暑さ、後半は曇天。フランス国内はいたって平穏。報道されているような危険性は、少なくとも表面的には感じられませんでした。時折、自動小銃を携行した兵士や警察官を見かけましたが・・・今のヨーロッパでは、極普通の光景では？

* 第1日目（5月24日）

6月23日(月)、成田前泊。5月24日(火)、成田11:00発のエールフランス航空で、パリ乗継ニース着18:25(現地時間)。それからホテルへ。到着は21:00。成田を出てからホテル着まで17時間(時差-7時間)の移動。ホテルに着いて汗を流し、22時30分就寝。成田起床がAM6:00だったので、23時間30分の間、ほとんど睡眠無し。眠～い。おかげで、よく眠れました。やはり、風呂とベッドです。それにしても、ヨーロッパは遠～い。と言うことで第1日目は無事過ぎました。

* 第2日目（5月25日）

AM6:00起床。今日は、ニースの隣のモナコ公国へ・・・。モナコ公国は、面積わずか2Km²と、バチカン市国(0.44Km²)に次ぐ世界二番目の小国。とは言っても、世界有数のリゾート地。訪れた時は、今年のモナコF1グランプリの直前。フリー走行が、明日26日(木)から始まり、決勝が5月29日(日)とあって、多くの観光客で溢れていました。公道を使用するため、結構、迫力があるらしい。それにしても、港を埋め尽すかのごとく、豪華なクルーザー一群。あれ一艇で我が家が？軒とも・・・。

前日ともあって、公国内には交通規制が・・・。ルイ2世スタジアム前からシャトルバスで大公宮殿のあるヴィル地区へ・・・。ここからミニトレインでF1レースのコース巡り。その後、大聖堂や大公宮殿へ・・・。ちょうど、衛兵の交代式に遭遇したものの、観光客が多く、まともには・・・。

ところでフランスとの国境は？市街後方の山にあるのですが・・・。現在、建物が建てられていない、岩肌の部分から上がフランスだそうです。山を国境に使用する場合は、一般的には稜線を・・・。何故？

花の写真は、フェイジョアとサクラウツギ。ミニトレイン

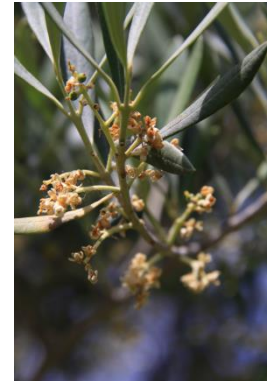


写真上：モナコの港と市街/中：大公宮殿
/下：フェイジョア
(フトモモ科フェイジョア属)

乗場近くの植栽の中に、ブラシノキに似てはいるけれど鮮やかな紅色の花・・・フェイジョアでした。最近、一般家庭の中に入りつつある植物。花も綺麗ですが、果実も生食またはジャムなどに・・・自然落下した果実、さらに追熟させてから食べると美味しいそうです。



写真上左/上右：サクラウツギ(ユキノシタ科ウツギ属)
/下右：オリーブの花



サクラウツギは初めて眼にした花、フェイジョアとは少し離れた植栽の中に、遠目にはコデマリに近い花のように見えたので・・・近寄ってみると、どうも様子が違う。なんだろうと思いつつ・・・帰国後、調べてやっと解りました。

午後は、ニースの港近くで昼食。カサゴのスープとタコのグリル。食後、シャガール美術館へ・・・旧約聖書をモチーフにした作品が多く、コンサートホールにある「天地創造」のステンドグラスを堪能。



シャガール美術館の前庭に植えられていたオリーブですが、既に落花盛んでした。オリーブも、近年、植えられる家庭が増えているようです。が、放任するとたちまち大きく、枝張も広くなる樹。コンパクトにメンテナンスするには、少々厄介な樹だと思います。枝垂れ気味に維持できれば、優しい雰囲気醸し出してくれますが・・・

写真上左：ニースの港/上右：天使の湾

ニースの市内に戻りショッピング街を散策。英国人が出資して整備された英国人の散策道(プロムナード・デ・ザングレ)へ・・・プライベートビーチも多いようで、パラソルで埋まっている所も・・・海岸へ降り、天使の湾と言われる風景を楽しむことが・・・で、一日が終わりました。今のところ時差ボケも感じず・・・明日はどうでしょうか？

* 第3日目 (5月26日)

今日はニースを出、エクス・アン・プロヴァンスからアルル(世界遺産)へ・・・その前にニースの朝市へ・・・花や野菜を扱うお店が多く、それにまだ開店準備中のお店も・・・オリーブオイルを家内が・・・ホテルまでは、プロムナード・デ・パイヨン経由で・・・プロムナード・デ・パイヨンに植えられていた花達です。いずれも、普段、目にしない花・・・ガウラ、ホウオボクモドキは帰国後、名前が判明。それにしても、雄蕊



と雌蕊の長い花です。が、それなりに可愛さが・・・。
 スモークツリー・・・小生、パープル色を見るのは初めて。スモークツリーの仲間とは思っていましたが、



なにせ、日本では見かけたことがなかったので・・・。

公園の手前に駅があり、ホームに停車。最近、ヨーロッパでは多くの路線がある、低床式の市街電車。

エクス・アン・プロヴァンスへはバスで約

2時間。今日も25℃を超える気温。天気には恵まれてはいるものの、やはり25℃を超えると体には・・・。昼食

後は、日陰を選んでの散策です。

この街ですが、地下水量が多いそうです。それを証明するがごとく市街のあちこちに

噴水が・・・。それに石畳に覆われているにもかかわらず、プラタナスの大木が・・・。よく育ったものだと感心。その上。思い切りよくバッサリ？街路樹はプラタナス一色。

プラタナス・・・スズカケノキ科スズカケノキ属の総称。スズカケノキ。よく耳にする樹の名前ですが・・・。スズカケノキ、アメリカスズカケノキ、と両者の交配種のみみじバスズカケノキの3種。では、3種の見分け方は？葉も異なるけれど、鈴のように垂れ下がる球形果の数の方が、解りやすいのでは？1本の果軸にアメリカスズカケノキは1個、スズカケノキは3～4個、のみみじバスズカケノキは1～3個。

ここでの名物菓子はカリソン。アーモンドとメロンのシロップを混ぜてペ

写真上左：ガウラ～ヤマモソウ、ハクチョウソウ
 (アカバナ科ガウラ属)

/上中：ホウオウボクモドキ

(マメ科ジャケツイバラ属)

/上右：スモークツリー・ロイヤルパープル

(ウルシ科ハグマノキ属)

/左：ニースのトラム



写真上左：ド・ゴール広場の噴水/上右：リシェルム広場

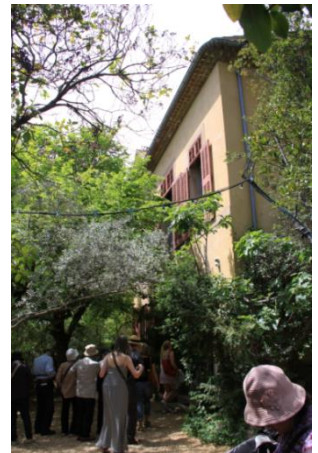
/下：サン・ナヴィール教会



ースト状にしたものを小さな菱形の型で抜き、砂糖でコーティングしたもの。上品な甘さで日本茶にも・・・。
イタリアから伝わったとか。

サン・ナヴィール教会・・・5
世紀(カロヴィング朝)～17世
紀までの建築様式(ロマネスク、
ゴシック、ルネサンス等)が混
在する珍しい教会。セザンヌが
アトリエへ行く途中、必ず祈り
を捧げた場所だそうです。

市街散策後は、セザンヌのア
トリエへ。緑に囲まれた静かな
所でした。見学後、予定にはなかつたので
すが、急遽、サント・ピクトワール山の見



写真上左：レ・ローブの丘からサント・ピクトワール山

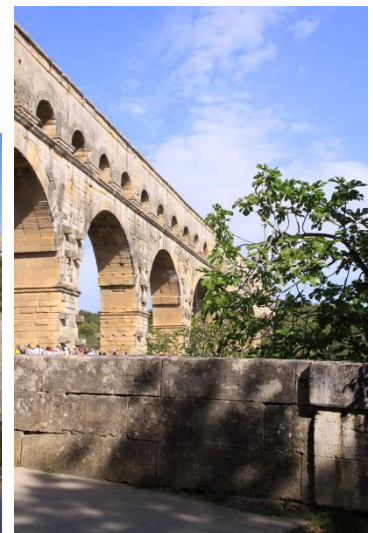
/上右：セザンヌのアトリエ

えるレ・ローブの丘へ・・・。セザンヌが好んで訪れ、多くの作品を残したサント・ピクトワール山を眺望。バ
スを降りてしばらくは住宅街の中を・・・。突然、視界が開け、目前にイトスギ越にサント・ピクトワール山が
現れました。ここには、初期の作品から晩年の作品までのレプリカが飾られていました。だんだんと変化する
セザンヌの心を説明していました。そして、アルルへ。今夜と明晩はアルル泊です。

* 第4日目 (5月27日)

写真下左/下右：ポン・デュ・ガール

今日は、ポン・デュ・ガ
ール、アヴィニヨン、アル
ルの世界遺産巡りです。観
光客の少ない時間帯にと、
少し早めの出発。ポン・デ
ュ・ガールに着いた時、駐
車場も空いていました。



ポン・デュ・ガールはフ
ランス南部ガール県のガ
ルドン川に架かる水道橋。ユゼスからニームへ水を運ぶための水路の途中にあり、古代ローマ時代・紀元前

19年頃に架けられたと考えられているそうです。導水路は全長約 50 km、平均斜度は 24.6 cm/1 km、流水量
は1日約2万 m³であったとか・・・。水道橋=古代ローマ人=土木技術の素晴らしさ。2000年以上経た今でも現
存。景観も含めて素晴らし〜いの一言。

引き続いてアヴィニヨンへ・・・。

駐車場の目前に、ローヌ川に架かる？架かっていたサン・ベネゼ橋(アヴィニヨン橋)が・・・。かつては全長
約900m。中州を超えて対岸まで・・・。今はローヌ川の氾濫等で、4本の橋桁(元は22本)と橋を造った聖ベ
ネゼを祀るサン・ミコライ礼拝堂のみ。早速、サン・ベネゼ橋へ・・・

「橋の上で輪になって踊ろう・・・」。無理をすれば踊れなくも無いが、昔は橋の上ではなく中州で踊ってい



写真上左：城壁

/上右：サン・ベネゼ橋(城壁にて)

たものが何時の間にか橋の上で」となったらしいとか。

思い出しました。日本でも・・・。「アルプス一万尺、小檜の上でアルペン踊りを・・・」。とてもじゃないけれど、踊ったとたんにガラガラと足下の岩と一緒に落ちていきそうな場所だそうです。



写真上左：サン・ベネゼ橋

/右：旧市街

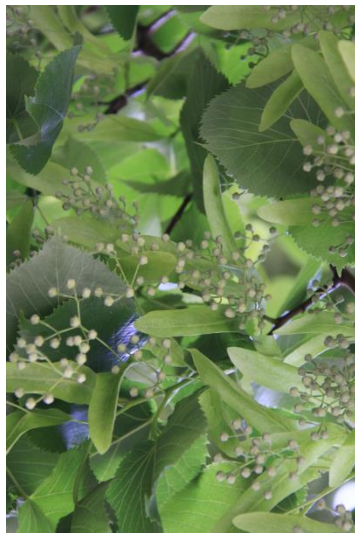
いずれも中州にて



アルルへ向かう前に「ローヌ川の中州からみたアヴィニヨンの街も素敵ですよ」とのことです、中州

へ・・・。素晴らしい眺めでした。

旧市街散策中に見かけました。花は、ウスベニアオイ、別名ブルーマロウ。樹は、セイヨウシナノキ。



写真上左/上中：セイヨウシナノキ (シナノキ科シナノキ属)

/上右：ウスベニアオイ(アオイ科ゼニアオイ属)

ウスベニアオイ・・・街路の片隅に一株のみ・・・。それでも、縞模様の花びらが綺麗。草丈は 60cm~2m にも成長する

こともあるそうですが、そんなに大きくなるとはとても思われません

でした。大樹は・・・ガイドさん曰くボダイジュ、リンデンと・・・。

ところで、ボダイジュと呼ばれる樹ですが・・・。インドボダイジュ(クワ科イチジク属)は、お釈迦様が悟りを開かれた場所にあった樹でインド原産。熱帯性。ボダイジュ(シナノキ科シナノキ属)は、中国原産。インドボダイジュは、中国では育たないため、葉の良く似ている樹をボダイジュに・・・。リンデンバウムとは・・・シューベルトの歌曲に出てくる菩提樹と同じと解釈？ですが、少々疑問が・・・。本来、リンデンバウム=セイ

ヨウシナノキ(シナノキ科シナノキ属)は、ナツボダイジュとフユボダイジュの交配種だそうです。そしてセイヨウボダイジュ=ナツボダイジュ。なかなか見分けの付きにくい樹だそうです、その呼び名も結構、混乱しているようです。多くは、セイヨウボダイジュ=セイヨウシナノキ？

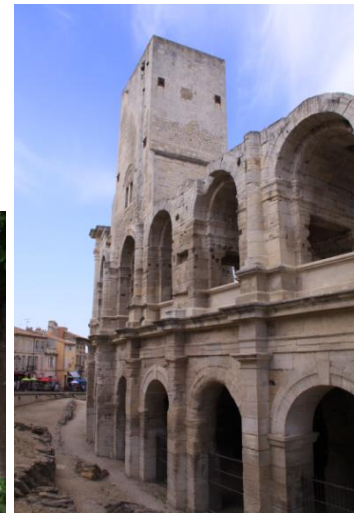
今日、最後の観光地、アルルです。ここはゴッホが2年間住み、約300点の作品を残した街。まずは、郊外にある跳ね橋へ・・・。ゴッホが描いた橋ではなく、移設復元された橋だそうです。跳ね橋も、多くあったそうですが、ゴッホが直接画材とした跳ね橋は戦災で・・・。故郷のオランダに思いをはせながら描いた作品が「アルルの跳ね橋」。

市街へ戻り、散策。ここにも古代劇場遺跡、円形闘技場遺跡などローマの古代遺跡が多く残っている街。その他、ゴッホが入院して



いた病院跡エスパス・ファン・ゴッホなど・・・。花は、ニースでも見かけたガウラ。白です。

写真上左：跳ね橋 / 上右：古代劇場遺跡
/ 下右：円形闘技場遺跡
/ 下中：エスパス・ファン・ゴッホ
/ 下左：ガウラ(アカバナ科ガウラ属)



* 第5日目 (5月28日)

今日はアルルから約3時間かけてカルカソンヌ(世界遺産)へ・・・。



プロヴァンス地方からラングドッグ地方へ移ります。地中海と大西洋を結ぶ古代ローマ時代からの交通の要衝として城塞が築かれたのが起源だそうです。今は、街の一部になっています

が、城壁で囲まれたかつての城塞都市・シテが歴史的城塞都市として世界遺産に・・・。

「カルカソンヌを見ずして死ぬな」と言われているほど、フランス有数の人気観光地だそうです。



写真上左：シテ遠景～ポン・ヌフ橋にて/上右：シテ城壁

女領主カルカスの伝説」。敵に包囲され、落城寸前、公妃カルカスが、最後の一頭の豚を太らせて、敵陣へ放り捨てたところ、敵は、まだまだ十分な食料があると思ひ、撤退。カルカスは、勝利を祝



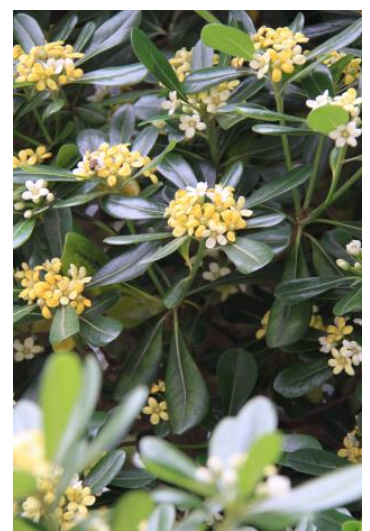
写真上：ホテルのサンデッキから
コムタル城とカルカソンヌ市街
/右：オート門外からコムタル城



い、町中の鐘を鳴らさせたところ、敵軍が、「カルカスが鐘を鳴らしている Carcas sonne ;カルカ・ソンヌ」と。これが市の名前の由来になったのだとか。兵員が多勢、残っているように、藁人形を城壁に並べたという話も・・・

藁人形の話は中国や日本にも逸話が・・・

諸葛孔明が赤壁の戦いで、藁人形を使って、敵の矢を・・・楠木正成の千早城の戦いで藁人形に甲冑を付けて利用したとも・・・



写真上左/上中：トリトマ(ユリ科シャグマリ属) /上右：トベラ(トベラ科トベラ属)

カルカソンヌの

もう一つの特徴は、二重の城壁に囲まれていること。城壁を補強する際は、通常、高くするそうですが、ここでは二重に・・・城を築いた場所の制約からだそうです。

カルカスの像が置かれているナルボンヌ門から 11～13 世紀建造のコムタル城へ・・・内部を見学したのち、11～14 世紀に建てられたサン・ナゼール・バジリカ聖堂へ・・・宿泊ホテルで一休みした後は自由散策。

オート門からシテ外へ・・・オード川に架り、シテ全体を見渡せるというポン・ヴィユー(旧橋)とポン・ヌフ(新橋)へ・・・

今夜の宿泊はシテ内の旧司教邸跡に建てられた(改装?) ホテル・ド・ラ・シテ。リッチな一時を過ごせそうです。

トリトマはド・ラ・シテの中庭に、トベラは駐車場に、咲いていました。トベラは日本でも多く目にする花ですが、トリトマはなかなか・・・

* 第6日目 (5月29日)

今日は、大西洋岸の街、ボルドー(世界遺産)へ・・・約3時間30分のロングドライブ。市街区域が世界遺産。登録名は「月の港、ボルドー」。月の港とは、三日月状に蛇行するガロンヌ川を中心に発展してきたボルドーの通称だそうです。勿論ワインの名産地。特に赤ワインが有名だそうです。ワイン通にとっては・・・ビール派の小生にとっては、少々荷が重そう。が、早速いただきました。ウーン、やっぱりワインはワインだ。

散策はカンコンス広場から・・・トロンペット城の跡地に造られた、ヨーロッパでは最大の都市広場だそうです。ところでカンコンスって何？「互い違い」との意味らしい。プラタナスの木が互い違いに植えられ、19世紀にはニレ(ニレ科ニレ属)の木が植えられていたそうです。その一角には、フランス革命の引き金となったジロンドの記念碑が・・・



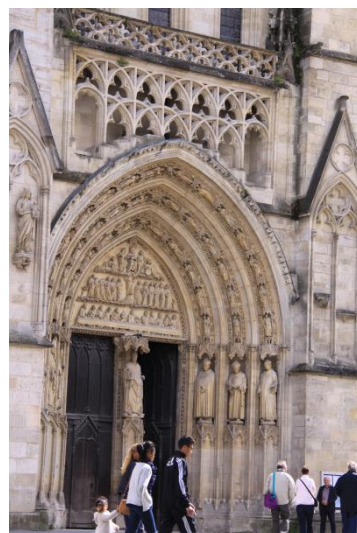
写真上:ジロンドの記念碑

コメディ広場にある大劇場。建築家ヴィクトル・ルイによって1773年から1780年に建てられたもので、新古典派建築の代表的建物。史跡に指定されているそうです。



写真左:大劇場/右:大階段

新古典派建造物としては、パリのシャルル・ド・ゴール広場のエトワール凱旋門などがあるそうです。



写真上左:サン・タンドレ大聖堂/上中:王の門/上右:ヴィタル・カルル通りにて

内部見学は予定外でしたが、ガイド嬢が強く交渉して、入口から内部を・・・

パリ・オペラ座の大階段のモデルになったと言われているエントランスホールの大階段を垣間見ることができました。

サン・タンドレ大聖堂。「ボルドーの守護聖人・聖アンドレを祀った巡礼教会。「月の港ボルドー」の建造

物として、さらにフランスのサンティアゴ・デ・コンポステーラの巡礼路の一部として、二つの世界遺産に・・・

11世紀ロマネスク様式で建築されたものの、その後の増改築で、ロマネスク様式も今では、内部の一部の壁のみに・・・北側にある「王の門」は、13世紀に作られたもので、「最後の審判」の彫刻も・・・。

最後はトラムに乗ってカンコンス広場まで戻り、18世紀に20年の歳月をかけて造られたブルス広場へ。ここからはガロンヌ川を渡るピエール橋も見ることができました。この橋は、1965年までは、ガロンヌ川左岸とバステード界限をつなぎ、ガロンヌ川を渡る最初の橋でしかも唯一の橋だったそうです。1810年から1822

年に、ナポレオン・ボナパルトの命で架けられ、大工たちは12年間、流れの強さが引き起こす多くの問題に直面。イギリスから借り受けた潜



写真上左：ピエール橋/上右：ブルス広場の水鏡

水鐘のおかげで橋脚を据え付けることに成功した

そうです。Napoléon Bonaparte の字数に合わせてアーチは17個。

ブルス広場には、近年の作ですが、水鏡が・・・鏡のような水面と霧に包まれる空間が交互に出現するそうです。残念ながら、訪れた時は風もあり、水面にさざ波が立っていたので、一面鏡のような水面は見ることができませんでした。それでも、ほんの少しの時間でしたが、垣間見ることができました。

市街散策中に珍しい花を見かけました。ベニバナトチノキです。ガイドさん曰く、「日本では見られないのでは?」。「少なくとも小生は初めて」と、返答。トチノキの花は「白」とばかり・・・。

多くの方が「マロニエって、トチノキですよね・・・。」と・・・。本来、マロニエとトチノキは異なる樹木。どちらもトチノキ科トチノキ属ですが、マロニエ=セイヨウトチノキで、トチノキの近縁種。その外観上の違いは・・・

トチノキの葉には鋸歯(ギザギザ)が無く、セイヨウトチノキには有る。トチノキの実には刺がなく、セイヨウトチノキの実には刺があるので見分けられると思います。

ベニバナトチノキは北米南部原産のアカバナトチノキと



写真上：プラタナスの並木

/右：ベニバナトチノキ(トチノキ科トチノキ属)

ヨーロッパ原産のセイヨウトチノキの交雑種だそうです。であれば、日本ではなかなかみられないのでは?茂ったプラタナスの並木です。やはり、ヨーロッパは緑が多い・・・。